

◆ 2020 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：第2回 SDGs エコフォーラム in 埼玉実行委員会

23A-44

代表者：実行委員長 江田 元之

U R L : <http://www.kannet-sai.org/about/activities/lcs.html>

1. 活動が必要とされた状況

埼玉県内の SDGs 目標を達成するためには、基盤となる環境保全活動が重要である。今後、環境保全活動を活発化するためには、環境保全活動を実践している関係者が一堂に会し、情報交換や相互交流及び情報発信ができる場を設定することが求められている。学生からシニアまで、世代を超えた者が意見交換の場に参加することにより、連携、協働、パートナーシップの関係を作りだし、環境保全活動が深まることが期待できる。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

第2回 SDGs エコフォーラム in 埼玉

～つながろう 広がろう 世代を超えて エコの環～

〈実施時期〉令和3年1月30日（土）

〈会 場〉ソニックシティ+オンライン（YouTube ライブ・Zoom ミーティング）

〈参加人数〉370名（会場79名、オンライン291名）

〈主 催〉第2回 SDGs エコフォーラム in 埼玉実行委員会

※ 埼玉県地球温暖化防止活動推進員、自治体、環境団体、企業等を構成員とし、企画・準備・運営を行った。

〈内 容〉基調講演「グローバルからローカルへ：持続可能な開発目標（SDGs）の視点から未来を考える」

- ・ カトラミーズ・ターレク氏（慶応義塾大学大学院 特任講師）
- ・ 高校生 SDGs スピーチ 奥田 成美氏（国際学院中学校高等学校）
- ・ 分科会①コロナ禍から見た新しい暮らしのカタチとは？
 - ②脱炭素を目指し再エネの比率を増やすには！
 - ③水辺の環境と生物多様性
 - ④つくる責任つかう責任
 - ⑤グローバルな環境教育とは！



基調講演の様子



分科会の様子

3. 活動の成果

コロナ禍において、集合形式ではなくオンラインを積極的に活用することで、環境問題に携わる人だけでなく、県内外の学生や企業、自治体からの参加を得ることができた。さらに、幅広い層に環境問題の現状や効果的な対策を訴求することができ、SDGs 目標の達成に向けた行動への一助とすることができた。

4. 今後に残された課題

実行委員会メンバーのオンライン活用経験が少なく、オペレーション操作の向上が課題である。また、オンラインの活用により全国からの参加が可能となったが、より多くの参加者を得るための広報手法が課題。自治体の参加が少ないことが課題であり、今後の分科会テーマの設定などの検討を要する。